

## 各務原ロータリークラブでの卓話①

第2630地区R財団資金管理小委員会委員長  
多治見リバーサイドロータリークラブ  
澤田哲郎 令和4年10月12日

### ロータリーの創設者：ポール・パーシー・ハリス

1868年4月19日に米国ウイスコンシン州ラシーンに生まれたハリスは、両親（ジョージとコルニア）が浪費家だったために、家庭が落ちぶれて3歳の時に父方の祖父母がいるバーモント州ウォリングフォードに引っ越した。中学校卒業後、バーモント大学に入学したが、1886年秘密結社を巻き込んだ事件により退学させられ、1887年の秋にプリンストン大学に再入学した。しかし、20歳になる1888年に祖父が死亡したため、学費が払えず、アイオア州デイモンに移り、そこで法律事務所の見習いとなった。見習い期間終了後にアイオア大学で法律を学び、23歳の1891年6月に法学士を取得しました。しかし、その後5年間は新聞配達員、記者、果物畑での仕事、俳優、カウボーイ、家畜の運搬などをしながら食いつないでいた。1896年（28歳）にシカゴに移り、やっと法律事務所を開設することができました。その4年後、シカゴ北部で同僚の弁護士ボブ・フランクと夕食をともにし、一緒に散歩をしていた時の出来事に、界隈に立ち並ぶ店に二人で立ち寄った時に、ハリスはフランクが多くの店主達と親しくしていることに大変驚きました。シカゴに移り住んで以来、事業人の間にこのような友情、信頼を見ることが無かったハリスはウォリングフォードで過ごした少年時代を思い出し、次のように考えました。「大都会にいる何百人、いや何千人という他の人たちもこのような体験をしているに違いないのだという思いが消えなかった。立身出世するために農場や小さな村からシカゴにやって来た若者が大勢いるはずだ。彼らを一堂に集めたらどうだろうか。彼らも自分と同じように友情を求めていたら、きっと何かが生まれてくるに違いない。」ハリスはやがて、仕事を通じて知り合った数人の仲間を集め、地元の職業人からなるクラブを結成するという構想について話し合いました。1905年2月23日（36歳）、ポール・ハリス、シルベスター・シール、ガスター・バス・ローア、ハイラム・ショーレがシカゴ中心街のあるローアの事務所に集まり、これが世界初のロータリークラブの例会になりました。

1907年2月、ハリスはシカゴロータリークラブの3代目会長に選ばれました。ハリスはロータリーをシカゴ以外にも広げようとした。しかし、経済的負担が大きくなることを懸念した数人の会員が反対しましたが、ハリスの

粘り強い努力の結果、1910年には米国的主要都市に16ものクラブができあがりました。

1910年8月にシカゴで初のロータリー全米大会が開催されました。同時期に16の既存クラブが一体となって全米ロータリークラブ連合会（現在の国際ロータリーの前身）が結成され、ハリスが初代の会長に選出されました。

1920年代中頃、ハリスはロータリーの顔となって精力的に活動しました。会員増強と奉仕活動の推進のため、しばしばジーン夫人を伴って世界中のクラブを訪問しました。

しかし、永い闘病生活の末、1947年1月27日にハリスはシカゴで78歳の生涯を閉じました。亡くなる前にハリスは、葬儀に贈る花の代わりにロータリー財団に寄付をしてほしいと言い残しました。偶然にもハリスが亡くなる数日前にロータリーのリダー達は財団での大規模な募金に取り組んでいました。訃報を受け、ロータリーは寄付金を集める方法として、ハリスの遺志を反映したポール・ハリス記念財団を設立しました。亡きロータリー創設者を偲ぶため、多くのロータリアンがこの募金に寄付をしました。亡くなつてから18ヶ月の間に財団へ130億ドル（約1兆4千億円）の寄付が寄せられ、財団の最初のプログラムである高等教育奨学金に充てられました。

現在ロータリー財団への寄付金は毎年約4億ドル（440億円）が集められております。

第2630地区のロータリークラブの会員の皆様にホール・ハリスの遺志を理解していただきロータロー財団へ毎年150ドルの寄付をお願いいたします。

この寄付金の一部が地区補助金やグローバル補助金などとして、各ロータリークラブの活動資金として有効に使われております。



各務原ロータリークラブでの卓話②

第2630地区R財団資金管理小委員会委員長

多治見リバーサイドロータリークラブ

澤田哲郎 令和4年10月12日

**日本のロータリーの創設者：米山梅吉（東京RC）（1868～1946）**

米山梅吉は東京芝田村町で明治元年（1868年）に誕生。父は大和国高取藩士の和田竹造、母は静岡の三嶋大社の神官日比谷右京の娘うたで、その三男として生まれた。梅吉が4歳の時父が死亡。やむなく母の郷里の三島に移り住んだ。梅吉は幼少の時から神童といわれ英才であった。梅吉11歳の時、隣村上戸狩の米山家がこの出来の良い少年に眼を付けて養子にと望んだ。この米山家は今川時代から北条時代を経て400年も続いた旧家で名主の家柄であった。当主は13代藤三郎、夫人はさく、一人娘の春子がいた。後の米山夫人である。梅吉は明治14年、13歳の時に沼津中学（前身は沼津兵学校）に入学した。この学校は徳川慶喜が大政を奉還して駿府に隠棲した時、多数の幕臣が移り住んだ。その子弟の教育のために造られた学校である。校長は江原素六で麻、学園を創立し、後に衆議院議員を務めた、米山にとって良き師であった。明治16年12月、米山は地元の婿、若旦那として暮らすことに疑問を感じ、中学卒業を待たずに単身上京した。米山は土居光華の門に入り、銀座江南学校に通い始めた。ここで米山は生涯の恩人となる友人、藤田四郎と出会う。彼は井上馨候（明治政府参与・内務大臣など）の娘婿で、その縁でこの後三井銀行に入ることとなる。明治18年梅吉は東京府吏員採用試験に合格。渡米の夢を持ち、青山の東京英和学校（後の青山学院大）に入学。明治20年に銀座の福音会英語学校に入学。この年、梅吉は米山家に入籍、米山姓を名乗り年末に渡米した。20歳であった。渡米した米山はサンフランシスコ福音会の寄宿舎に身を置き、アメリカ生活が始まった。その頃の学資を稼ぐのはお定まりの皿洗いをこなし、カルフォルニア州のベルモント・アカデミーを終えて、福音会のハリス監督の推薦でオハイオ州のウェスレアン大学に進んだ。その後ニューヨークのシラキュース大学に転じた。渡米8年、米山は明治28年27歳で帰国した。米山は最初、新聞記者になりたかったが、日清戦争が終わった年で就職難の時代であった。明治29年、28歳の時に友人（海野力太郎）の世話を日本鉄道会社に入社できた。しかし、鉄道は技術畠が強く、長居すべきではないと考えた米山は藤田四郎に相談。明治30年藤田の岳父井上馨候の口添えで三井銀行に入行した。入行してからの米山はトントン拍子に出世したのである。大御所の口利き、アメリカの大卒、演説は上手、英語は自在、男前とすべてが整

っていた。入行1年目で早くも神戸支店次席であった。明治33年大阪支店、35年大阪支店次席、同年7月には大津支店長に栄転した。明治37年横浜支店長、明治40年には大阪支店長に就任している。明治42年は常務取締役に就任。順風満帆の銀行人生であった。

1920年（大正9年）、当時、三井銀行の常務取締役であった米山梅吉が、東京府に日本初の東京ロータリークラブを、国際ロータリーから855番目に認証を受けて設立した。ちなみに2020年は東京RC100周年を迎えた。東京RCの創立の経緯は、1918年（大正7年）1月に日賀田種太郎男爵を団長とする財政調査団の一員として訪米中の米山梅吉はテキサス州ダラスRC在籍の福島喜三次と出会い、ロータリーに興味をもちました。ロータリーの例会に出席した米山梅吉は、ロータリーの利己のない奉仕の精神と行動に強い共感を持ち、帰国後ロータリー精神と組織の研究に努め、日本でのロータリーの創立に動きだした。福島喜三次は米山がロータリーの創立を希望していることを知ると、ダラスRC会長から国際RC会長に日本にロータリーの創立を勧める書簡を米山に送ることを提案した。このあと、国際ロータリーは直接福島喜三次と日本におけるロータリーの創立に向けて交渉を重ね、1920年10月20日に銀行クラブにおいて創立総会が開催され、1921（大正10年）年4月1日に承認が下りた。当然初代会長は米山梅吉が就任した。幹事には福島喜三次です。東京RCの創立にあたってダラスRCは国際ロータリーへの橋渡しを行ってくれたが、東京RCは国際ロータリー直轄のクラブで、スポンサークラブがダラスRCではありません。日本で2番目に認証を受けた大阪RCも国際ロータリー（RI）直轄で出来たクラブである。ダラスRCの会員であった福島喜三次が帰国後に大阪に赴任し、星野行則（加島銀行専務理事）とともに1922年（大正11年）11月17日に大阪RC創立総会を開いた。その後、日本の大都市に次々にロータリークラブが創立された。1924年（大正13年）8月に神戸RCが3番目のロータリーとして設立され、大阪RCがスポンサークラブとなった。続いて東京RCがスポンサークラブとなって、1924年12月に4番目に名古屋RCが設立された。さらに東京・大阪RCの共同スポンサーによって5番目の京都RCが設立された。ちなみに、我が多治見リバーサイドロータリークラブは平成4年5月30日多治見西ロータリークラブがスポンサークラブとして設立された。我がリバーサイドも2021年（令和3年）に30周年を迎えました。さらなる飛躍をして多治見では一番元気の良い、多治見市の発展に寄与できるロータリー（現在47名）になりたいものです。

TOP PAGE  
トップページ

YONEYAMA  
UMEKICHI  
奉仕の人米山梅吉

HALL GUIDE  
米山記念館とは

MAIL ORDER  
通信販売

LETTERZINE  
館報

ACCESS  
アクセス

CONTACT US  
お問い合わせ

DONATION  
ご寄附のお願い



### 米山梅吉記念館は我が国ロータリーの創始者 米山梅吉の遺品等を展示しています

『公益財団法人 米山梅吉記念館』は昭和44年3月26日、財団法人として設立されました。日本におけるロータリーの祖である米山梅吉を記念するためのもので、彼の生い立ちと人となりからその一生を記録するサイトとして当ホームページが開設されました。米山梅吉とはどのような人物像であるのかご覧ください。

※ご来館の際は開館状況を事前にご確認頂き、お申込書にご記入の上FAX(055-989-5101)にての事前の申し込みをお願い致します

### INFORMATION

2022. 8.20 9月17日（土）米山梅吉記念館秋季例祭を開催いたします。皆様のご参加をお待ちしております。
2022. 8.20 館報2022秋号発刊しました。まもなく賛助会員の皆様、全国のロータリークラブ及び関係先にお送りいたします。
- 2022.7.22 8月11日(木)～8月15日(月)を休館日とさせて頂きます
- 2020.12.15 著書一覧の情報を更新いたしました。
2020. 5.19 新型コロナウィルス感染防止につとめております。ご来館の際は事前にご連絡をくださいますようお願いします。
2019. 7.20 創立50周年記念出版『米山梅吉ものがたり』を刊行しました。お申し込みは記念館までご連絡ください。

### WHAT IS UMEKICHI YONEYAMA



米山梅吉 物語

米山梅吉の出生、幼少期から、三井に入社するまでの勉学、渡航と時代背景他、生涯の活動やエピソード



米山梅吉 年譜

米山梅吉の生涯を年譜にて掲載。東京RC創立からRI離脱までの年ごとの米山のロータリーとの関わりを記載



ローリーと米山梅吉 年譜

ロータリーと米山梅吉についてさらに詳しく掲載。東京RC創立からRI離脱まで米山とロータリーとの関わり



著書一覧

米山梅吉著書の発行年月日、発行所、内容を一覧で掲載。米山梅吉・米山梅吉記念館関係資料目録も掲載



通信販売

米山梅吉関連の書籍をはじめ、絵はがき、拓本、記念館パンフレット、米山梅吉胸像の通信販売を行っています

▶ 詳細を確認する

▶ 詳細を確認する

▶ 詳細を確認する

▶ 詳細を確認する

▶ 詳細を確認する